

# 水辺便り

## ふるさとの川整備計画など認定される

水辺に潤いや安らぎを創造し、人々の生活に豊かさを感じさせようとする試みが建設省の施策により、昭和62年度から「ふるさとの川モデル事業」、昭和63年度から「桜づつみモデル事業」がスタートしています。

平成2年度の両モデル事業の指定・認定式が7月5日、建設省共用会議室において、近藤建設省河川局長、日本桜女王を初めとする関係者多数の出席のもとに開催されました。

平成2年度の「ふるさとの川モデル事業」指定河川

は、大分県の七瀬川など20河川が指定され、整備計画は栃木県の巴波川など35河川が認定されました。この結果、全部で指定河川は117河川、整備計画の認定が73河川となります。「桜づつみモデル事業」は新たに43河川が認定を受け、既往の認定を加えると89河川となります。

認定を受けた河川は、計画に基づいて事業が今後進められることとなりますが、市民の憩いの場・ふれあいの場として一日も早く利用される日が来ることを期待しています。

## 「ラブリバー認定式」及び「ラブリバー活動交流講演会」開催さる

7月24日、主婦会館において近藤建設省河川局長をはじめとする関係者多数の出席のもとに、平成2年度「ラブリバー制度」の認定式が行われました。

今年度のラブリバー制度の認定に当たりましては、河川愛護活動の内容と良好な水辺空間の整備を図るのにふさわしい河川として、全国から38河川が認定されました。

ラブリバー制度は、ボランティア活動として堤防の草刈り・清掃等を行う住民に対して、河川敷等を住民の植栽や花壇としての利用に解放し、住民とともに河

川の良好な維持と潤いのある水辺空間の形成を図ることを目的とし、昭和63年度より建設省の施策として実施されています。

また、認定式に引き続き当センター主催による「ラブリバー活動交流講演会」が催され、長野県岡谷市の新居建設部長、熊本県泗水町の白井建設課長よりラブリバー活動の報告がなされました。さらに、記念講演として日本放送協会解説委員の中村靖彦氏より「川と民族のくらし」と題した講演が行われ、今後の河川のあり方に対して貴重なご意見を賜りました。

## 〈出版物案内〉

“今、話題の水文化を語る文化誌”

月刊「FRONT」

1,600円(税、送料込み)

“美しいカラー写真295枚で紹介”

「世界のウォーターフロントPART I」

4,120円(税、送料込み)

“川と人とのふれあい367km”

「信濃川水紀行」

2,500円(税、送料込み)

“全国で展開されている美しい水辺づくりの試み・第2弾”

「ふるさとの川をつくるⅡ」

—ふるさとの川モデル事業整備計画事例集(Ⅲ)—

定価6,800円(本体価格6,602円)

監修 建設省河川局

編集 財団法人 リバーフロント整備センター

発行 (株)大成出版社

“多自然型建設工法の理念と実際”

「まちと水辺に豊かな自然を」

定価 1,800円(税込み)

編集 財団法人 リバーフロント整備センター

発行及び申込み先 株式会社 山海堂

TEL 03-816-1617・FAX 03-816-1619

上記3誌については財団法人リバーフロント整備センターに直接お問い合わせ下さい。



財団法人リバーフロント整備センター

〒102 東京都千代田区一番町6-4一番町エイトワンビル6階

TEL. 03-265-7121 FAX. 03-265-7456